

7/17・18

第31回全国女性建築士連絡協議会(東京) 「未来へつなぐ住環境づくり」



令和4年7月17、18日の2日間に渡り、第31回全国女性建築士連絡協議会が東京日本建築学会建築会館にて開催されました。今回は会場とWEB双方でのハイブリッド開催となり、本県から東京会場5名、WEB5名、計10名が参加、私は東京会場へ参加しました。1日目の全体会では開会式に続き愛知県、奈良県、大阪府の活動報告、若手県の被災地報告、基調講演と交流会が行われました。

愛知県の女性委員会で是一般向けイベント、見学研修、講習会、勉強会などを企画開催、「わたらしい住まいづくり」をテーマに豊かな住まい方に関する情報を毎年発信している報告を、奈良県の建築士会では旧城下町歴史建造物を活かしたまちづくりのために町家所有者と連携しながら調査、清掃、リノベーション、街歩きなどを行っている報告を、また大阪府の女性委員会では高齢者の暮らしに関する勉強会を続けていた実績により、高齢者住宅改修費給付事業の審査業務を行っている報告をお聞きしました。それぞれの活動が共通して女性の視点や行動力などを活かしていること、また女性建築士が切磋琢磨して活動を継続していることに感動と刺激を受けました。

若手県の被災地報告では陸前高田市の高田高校で被災された元教員の体験談を伺う防災勉強会の報告をお聞きしました。過去の災害経験など地元の人から話を聞くことの大切さ、行政の避難所や指示が安全とは限らずそれぞれが自分の命を守る行動を考えることが重要と教えていただきました。

基調講演は早稲田大学教授 田辺真一氏より「これからの快適で健康な住まい」というテーマでウィズコロナ時代の住まいと換気のあり方、住まいの省エネと快適さについてご講演いただきました。

2日目の分科会では「オンラインセミナー役立つ運営ノウハウ伝授します!」「空き家対策の活動/民泊×観光地の取り組み」「福祉まちづくり/建築士の介護知識」「たてものを使い繋ぐために」「景観まちづくりと建築士・京都景観フォーラムでの活動」「愛媛の古建築を訪ねての本ができるまで」「古きものを活かす」の7つのテーマのもとに報告と討論が交されました。

それらの成果として、以下の点を今年のアピールとして発表し、発信していくこととし閉会しました。

1. 私たちは、今回の協議会を通し、建築士として、また、生活者としての視点から、住まいづくり、まちづくりを考え、未来に続く安全な居住環境づくりを目指します。
2. 私たちは、今回の基調講演を通して、建築士として、快適で健康な住まいとは何かを改めて見直し、ウィズコロナ時代の住まいづくりに取り組んでまいります。
3. 私たちは、継続してきた災害報告等を通し、女性建築士として、災害地域に寄り添う心を忘れずに、復興支援のあり方や、災害時における支援活動の方法を考えていきます。
4. 私たち女性建築士は、様々な専門分野の方々と連携しながら、建築士としての能力を活かし、暮らしやすい社会の実現のために日々研鑽してまいります。

鶴岡田川支部 齋藤 美恵

基調講演「これからの快適で健康な住まい」講師 田辺 新一氏

A分科会 「オンラインセミナー役立つ運営ノウハウ伝授します!」

7月17日3年ぶりとなる全国女性建築士連絡協議会が開催された。ウィズコロナが叫ばれる中、現地参加とWEB参加を取り入れた事により例年より参加者は少ないように思えたが、会場は久しぶりに顔を合わせた女性建築士で盛りあがっていた。

基調講演では「これからの快適で健康な住まい」と題し、早稲田大学創造理工学部建築学科の田辺新一教授より講演いただいた。田辺教授は衆議院経済産業委員会の省エネ法関連法案審議に参考人として意見を述べるような、今、世界的に問題となっている地球温暖化対策について権威を持つ方である。

最近よく耳にするカーボンニュートラルだが、何をどうすればいいか、壮大過ぎて分からない。車を電気自動車にすればいいの?と思う方も多いだろうが、日本における二酸化炭素排出量を見ると、運輸部門で約18% 家庭部門で約14% それに対し建築部門は約35%を占めている。

東京都では新築住宅への太陽光パネルの設置の義務化が進められているが、太陽光パネルの製造、廃棄に係る全てに於いての二酸化炭素排出量が課題となると田辺教授は言う。

これからの快適で健康な住まいとは、如何に二酸化炭素排出を減らせるかではないか。

山形支部 原田 江美子

コロナ禍オンライン会議等増え、ノウハウが学びたいと参加しました。

最初に福島県建築士会の村越さんの講演で、これまで開催してきた3回の「ハイブリット大会」を時系列で紹介していただきました。

福島県建築士会の試行錯誤を繰り返しながら何をどうやったのか、どんな機材を使用したのかをそれぞれの写真と共に紹介講演でした。

まず、失敗の中、試行錯誤の多いこと。「どうしても開催する」の強い思いでコロナ禍の会う集いを断念せざるを得ないところ、「こんな状況でも集いを途切れさせてはいけません!」思いの熱い想いで開催が決定したところには頭が下がりました。多くの失敗談の中、強く思ったのはリハーサルをしないと終わらぬトラブルに遭う!が良くわかりました。また機材と知識がある人に助けてもらう事が重要なことである!機材の説明は若手県建築士会の東さんでしたが、難しく理解に至らなかつたところも多かったのですが、連合会から借りられることがわかりました。

いずれ山形県で開催される大会も下準備とリハーサル、知識を持ったスタッフの確保が重要な事がわかり、大変有意義な分科会でした。

米沢支部 村山 紀子

入会者募集! お問い合わせ:山形県建築士会 電話0233-643-4568 http://www.yamagata-ken.org

山形県建築士会女性委員会広報誌

あれこれ

2022年10月発行
令和4年度 第2号
担当:新庄支部

8/27

第4回建築女子フォーラム



「銀山温泉本館古勢起屋改修復活と国指定文化財登録へ向けて」

まだまだ残暑の厳しい中、第4回建築女子フォーラムが、銀山温泉の銀山荘にて開催されました。

第一部は「古勢起屋改修復活へそれぞれの想い」と題する、設計監理の瀬野和広氏(瀬野和広+設計アトリエ代表)と施工管理の荒井正俊氏(株式会社 市村工務店)の講演、並びに「瀬野氏との出会いと古勢起屋の歴史、改修復活国指定文化財登録への想い」と題する施主小関健太郎氏(株式会社 銀山荘社長)の講演をお伺いしました。

設計者の瀬野氏は郷里銀山温泉老舗旅館の改修計画の変遷。最初は建て替える7階建ての予定で、イメージは「歌舞伎座」など様々な計画づくりから5年経過。経済至上観念の街並みづくりの中で、当時の風情を変えない、あるいは戻す建築づくりこそ、本来の街並み保存手法の基本と拘った。見事コンペティションに勝ち残り、「何も変えずに大きく変える」をコンセプトに大正浪漫の風情溢れる建物に完成させられました。耐震補強を兼ね新旧のバランスを計りながら、新規軸材は完全天然乾燥を求め、県産西山杉とし、100年来の建築的保存の意義は、これからの未来へ受け継がれていくことでしょう。

ポイント 6条申請の扱い (ここ大事!)

本計画は建築基準法第6条における「大規模の修繕」もしくは「大規模な模様替え」に該当しないよう、

1. 過半を超えない修繕、模様替えであること
 2. エレベーター部分は10㎡未満での増築の単独申請とし、既存週及は受けないこと
- など諸官庁と事前協議の上、建物確認審査を免れる。

施工監理の荒井氏からは工事中の御苦労を伺いました。何度か増築工事を繰り返しており、3階の柱が最大120mm傾いていた事、土台部分はほぼ腐っており、1階の柱、土台はほぼ入れ替え、基礎も新たにベタ基礎にしたそうです。大正時代の外観イメージを復活させる為に簀の甲屋根にし、銀山温泉の建物の特徴でもあります戸袋の色漆喰左官彫刻など、この他にも作り手の苦労を感じさせる見どころ満載の建物です。

施主の小関氏からは小関館の歴史や銀山荘の経営理念、改修復活国指定文化財登録への想いなどを伺いました。

屋敷で地元銀山の味を堪能しつつ、いよいよ会は佳境を迎えます。

第二部はお待ちかねの「本館古勢起屋」の見学会です。では大正浪漫溢れる素敵な書生青年のお出迎えでお楽しみ下さい。

酒田支部 新井野 郁子

「銀山温泉本館古勢起屋改修復活と国指定文化財登録へ向け」～講演会&見学会～

尾花沢市銀山温泉で、長年閉館していた本館古勢起屋が、昔の姿をそのままに令和4年7月リニューアルオープンされ、設計、施工、施主の方々から講演いただきました。

写真で紹介された小関館の歴史は、大正2年以降頃、「古勢起屋うちゆあり」のこて絵がある木造2階建て(杉川葺)の外観。昭和初期～中期頃は木造3階建てに改修され、いずれも川に面したホワイエに人が立ち、その当時の賑わいが伝わってくるようでした。銀山温泉を訪れる楽しみのひとつは、川沿いの歴史的ロマン風情の中に人が行き交うゆったりした賑わいを感じることに。

「何も変えずに大きく変える」をコンセプトに築100年超えの建築的歴史を更に次世代に継承させるために、耐震補強を兼ね新旧のバランスを計りながらの屋台骨づくりと共に、温泉街で2つ目となる登録有形文化財を目指した作業も同時進行し進められたとのこと。新規軸材は完全天然乾燥を求め、県産西山杉を選定されたとのことでした。

街並みを変えない!変えたくない!この場所にしかない!子供の頃からの思い出と共に素直な気持ちで建物と対話しながらつくられた事を感じました。気の遠くなるようなプロジェクトに、設計、施工、施主のチームワークで挑み完成された様子に頭が下がる思いで見学させていただきました。

鶴岡田川支部 粟本 直美

第4回建築女子フォーラムin尾花沢に参加して

フォーラムプログラム「本館古勢起屋改修復活へそれぞれの想い」を拝聴した後、本館古勢起屋への宿泊を企画していただき参加させていただきました。

チェックインの説明はかなりネイティブな尾花沢訃りの山形弁。そしてここから飲み放題がスタートする素敵な宿泊プランです。お部屋は先ほど見学した川側のお部屋。外観の意匠を残した川側のホワイエのロッキングチェアで蚊取り線香の香りの中、先ほど聴いた銀山温泉の歴史の話の思い出しながら街並みを見下ろしてビールをいただく贅沢な時間を楽しみました。

夕食は、銀山温泉の入口近くにある野川亭でいただきました。本館古勢起屋から160メートルほど歩きます。そこから二次会の会場の湯けむり食堂しろがねへは190メートルほど歩きます。この移動が銀前温泉の街並みを楽しみ仕掛けのおもてなしなのだろうなと思いました。おいしい食事とお酒をいただいて散策する夜の銀山温泉。食堂しろがねでも飲み放題です。予算を気にせず食べて飲める素敵システム温泉街インクルーシブ。最高です。

なかなか交流ができなかった時期を経て、お泊り組の皆様との楽しい歓談の時間にも癒されました。

小関社長がおっしゃっていた、廃墟にするのは簡単なことという言葉、時代に合わせ歴史ある温泉街を守る大変さは外野からは計り知れません。いつまでも残ってほしい銀山温泉。改修工事の概要を拝聴した後、そこに滞在するという体験が出来てたいへん光栄でした。

鶴岡田川支部 三浦 美毅



建築女子フォーラムの企画にあたり

フェイスブックで繋がって以来、瀬野さんの記事を見ながら、地元尾花沢市銀山温泉で永年閉館していた本館古勢起屋の改修計画が進んでいることを知っていました。さらに昨年着工すると工事の進捗を時折見つつ、いつ完成するのかと楽しみに、一冬越えてようやく完成が見えてきたところで、ぜひ見学させていただきたいし、ここまでのご苦労話など、瀬野さんや市村工務店さん、そして小関社長からお聞きしたいと思いました。

昨年はヘリテージマネージャー養成講習を1年通して受講した方々もおられ、これを取り上げることはまさしく「今でしょ」。誰かが企画する前にやりたいと思いました。

4月女性委員長会議で企画案を承認いただいたから、銀山荘小関社長にお会いし、完成と、完成後のスケジュールをお聞きし、せっかくグランドオープンする本館古勢起屋を見学するのなら、ぜひとも宿泊を含めた企画をと思いました。

銀山温泉には子供が小さいころ洞窟探検に連れていき、「はいからさんのカレーパン」を食べながら散策した思い出があります。が、泊ったことがありませんでした。

お部屋が二人部屋なので、女性委員会会員限定での募集とさせていただきます。コロナ感染が未だ収束しない中、フォーラム参加者は、銀山荘の会場の広さから最大40名までの募集となり、広く建築士会、一般へのお声かけができなかったことが残念です。

事前に不慣れな機材セット、ZOOMで録画のリハーサル、会場の下見等をし、備えました。しかし申込者の中には、直前に「コロナ感染症の濃厚接触者になった」とキャンセルされる方もおられ、企画側、講師の方々、参加者の皆さんも無事に当日を迎えられるのか、前日まで不安がぬぐえませんでした。当日を迎え、開会までの時間のなさに、あたふたしましたが、スタッフそれぞれが考えて自ら最善を尽くしてくださり、なんとか開催され、みなさんに喜んでいただきまして感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

村山支部 草刈 めぐみ

